

従業員向け

放課後等デイサービス評価表

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		支援室内を用途別（静かな活動エリア、運動・感覚遊びエリア、個別支援エリアなど）に分けてあります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		特に支援が必要な子どもが多い時間帯には加配を行うなど、柔軟に対応しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動ごとのエリア（学習、遊び、休憩、移動など）を視覚的・空間的に明確に分け、こどもが今どこで何をするかを理解しやすい環境を整えています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃は毎日実施し、感染症対策として定期的な換気や消毒も行っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		可動式のパーテーションや家具を使用し、児童の特性や支援内容に応じてレイアウトを変更できるようにしています。これにより、限られたスペースでも効率よく活用できます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		月に一回の全体ミーティングを行い、目標を職員全員で共有・設定しています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を定期的に配布し、保護者の意向や満足度、ご意見等を把握する機会を設けています。評価表は無記名での回答も可能とし、率直な意見をいただけるよう配慮しています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に個別面談を行っており、話しやすい環境で事業所内での信頼出来るように努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	児童発達支援の外部評価を行っている第三者機関やNPO法人、自治体等が実施する評価プログラムの情報収集を行い、信頼できる機関との連携を検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ネット媒体(e-Larning)の研修を各自隙間時間に行うことができる。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPや事業所での掲載。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		年齢や目的に応じた標準化されたアセスメントツールの選定を行い、導入に向けた職員研修を実施しています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的なケース会議や日誌・記録を通じて職員間で共有し、それぞれの視点から意見を出し合います。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が作成した計画は、関係職員が確認できるようにデータや共有ファイルとして管理し、定例の職員会議やケース検討会議にて内容を丁寧に共有しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		年齢や目的に応じた標準化されたアセスメントツールの選定を行い、導入に向けた職員研修を実施しています。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	本人支援：アセスメント結果をもとに、こども一人ひとりの発達段階や特性に応じた具体的かつ達成可能な支援目標を設定。 家族支援：支援計画の作成時に面談を通して保護者の思いや困りごとを聞き取り、家庭で実践可能な支援内容も盛り込んでいます。 移行支援：保育園・幼稚園・小学校との情報共有や支援会議を視野に入れたスケジュールを計画書に反映。 地域支援、地域連携：必要に応じて地域資源の活用（児童館、図書館、地域イベントなど）を通じた社会参加も支援項目に盛り込んでいます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	毎月のミーティングで話し合いをし決定している。季節行事やテーマ活動、個別課題や小集団活動など、こどもの発達に応じて無理なく楽しみながら取り組める内容となるよう工夫しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	活動プログラムが固定化しないよう、こどもの興味や発達段階、季節行事、社会的な出来事などを取り入れながら、常に新しい視点を加えたプログラムづくりに努めています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別活動で安心できる関係を乗り越えながらスモールステップで課題に解決し、徐々に小規模集団や全体活動への参加に繋がられるように支援している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日ミーティングを行い支援会議を行っている。 活動の進行・安全確認・個別対応などそれぞれの職員が把握することで、チームとして継続性のある支援が実施できる体制を整える
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	毎日のミーティングで前日の振り返りを行い情報共有、支援内容の見直しを検討している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	成長療育システムHUGを活用し毎日の支援内容を記載している
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	日々の支援記録や職員間のケース会議での情報共有も活用し、必要に応じてモニタリング期間を待たずに随時見直しを行う体制も整えています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	自立支援においては、家庭でできることを増やしていくことから始め、社会に出て必要なスキルを得られるような活動を行っている。また、創作活動ではクッキングなど自立支援も交えながら取り組んでいる。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	活動前に、複数の選択肢を提示し、こども自身に活動を選んでもらう場面を設けている。こどもが選び慣れていない場合や、失敗を避けて無難な方を選ぶ傾向があるため、安心して選べる関係性や環境づくりが引き続き行っていく。	
関係機関や	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	日頃から当該児童の支援に直接関わっている児童指導員や保育士など、こどもの特性や日々の様子を把握している者が出席しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	サービス担当者会議や関係機関連携会議等には、当該児童の支援状況をよく把握した職員が出席し、他機関(保育園等)と協働して
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	個別の下校時刻や登校時間の変更等について、学校との連携帳や電話連絡で確実に情報共有を行っている。改善点としては下校時刻の変更連絡が保護者から直接来ることもあり、学校・保護者・事業所の三者間の連携ルールが不明確な場合がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	保護者さんとの面談時に情報として聞き取りは行っている。しかし情報共有のタイミングが就学前や利用直後に限られ、継続的な連携が少ないため、こどもの変化に応じたアドバイスを前施設から受けられないケースもある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	送迎時に事業所での過ごし方について保護者さんと共有したり、困り感などがある場合は他職員とも話し合ったアプローチの仕方を保護者さんにお伝えしている。

保護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。			職員がセンター主催の地域連携会議や研修に積極的に参加し、関係性の構築と専門性の向上を図る。 地域の児童発達支援センターに対し、事業所の支援体制や相談ニーズについて情報提供を行い、連携窓口を明確にする。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。			放課後児童クラブや児童館との交流はないが、他の事情所間での交流はできている。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。			忙しい時期には参加を見送ってしまうケースもあり、継続的な関与が課題となっている。 協議会での意見交換が一部事業所に偏りやすく、発言のハードルを感じることもあるため、準備やロールプレイ等の工夫が必要。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。			送迎時に事業所での過ごし方について保護者さんと共有したり、困り感などがある場合は他職員とも話し合ったアプローチの仕方を保護者さんにお伝えしている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			保護者会の開催を行っている。日常の困りごとの解消や、こどもの行動を理解するほめ方、指示の出し方などの療育スキルを学ぶ。楽しく子育てができるように支援。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。			利用可能な日数や時間帯、送迎の有無などを詳しくご案内し、保護者の理解が得られるよう資料を用いて丁寧にご説明しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。			保護者との個別面談の機会を設け、家庭での様子や困りごと、保護者の思い、こどもに対する希望や目標、こどもの意向などの聞き取りを行い、支援内容や目標の設定に反映している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。			保護者からのご質問やご意見にも丁寧に対応し、必要に応じて内容の修正や調整を行った上で、最終的に同意書を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。			保護者との個別面談の機会を設け、家庭での様子やお困りごと、保護者の思い、こどもに対する希望や目標などをこどもたちの聞き取り支援内容や目標の設定に反映しています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。			保護者会や地域参加型のお祭り、ご家族参加型の運動会を定期的に開催している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			公式ラインを設置し相談事を迅速に対応できるようにしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。			SNS(インスタグラム)等を活用し日々の様子や活動風景を乗せている。 連絡体制等の情報は公式ラインにて発信しています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。			鍵付きのロッカーに保管している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。			言語だけに頼らず、視覚的な支援(絵カード、スケジュールボード、写真、ジェスチャーなど)や具体的な物を使った提示、活動に参加できるようにしています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			る
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。			計 画に基づき実施し、実践を通じて職員の対応力を高めるとともにこどもたちにも安心して避難行動が取れるよう支援しています。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。			定期的な避難訓練や、付近の消防署へ災害体験を行っている。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	事前のアセスメントにて確認して、起きてしまった際の対応も確認している。また全職員への周知も行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	アレルギーに関してはまず初めに保護者からアセスメントを取り後に、全体への周知を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画には、事故防止・災害対応・感染症対策・不審者対応など幅広いリスクに対応する具体的な内容が盛り込まれており、定期的に見直しも行っています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	安全計画には、災害時（地震・火災・不審者対応など）の避難経路や避難訓練の実施内容、感染症対策、緊急時の連絡体制などが含まれており、定期的に見直しを行いながら実効性のある内容としていま
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	毎年度、虐待防止に関する研修を実施し、児童虐待の定義や対応の基本、リスクの早期発見、支援者としての関わり方などについて学ぶ機会を設けています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	毎年度、虐待防止に関する研修を実施し、児童虐待の定義や対応の基本、リスクの早期発見、支援者としての関わり方などについて学ぶ機会を設けています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	児童発達支援管理責任者を中心に、医療・心理・福祉の視点を持つ職員間で慎重に協議し、組織的に可否を判断します。